

利用をご希望の方は事前に電話☎024-594-1111
(平日の午前10時から午後5時)で申し込みを。



役場前の出発式で協定書を手にする株式会社いちいの伊藤信弘社長(左)と高橋副村長。

株式会社いちいと協定締結 移動スーパー『とくし丸』発進

9月12日、スーパーマーケット「いちい」の移動スーパー「とくし丸」が村内での訪問販売をスタートしました。「とくし丸」は、生鮮食品、惣菜から日用品まで、約400品目・1,200点の商品を積んで、利用希望の家庭を訪問します。初日は事前に申し込みのあった約30軒を巡回しました。また同日、村は、株式会社いちいと「地域見守りの取組みに関する協定」を締結しました。「とくし丸」の訪問販売を通して地域の見守りに協力をいただき、コミュニティの情報を行政サービスに生かしていきます。

※Fintech(フィンテック)とは…金融サービスと情報技術を組み合わせた革新的な動き



東京都大手町の会場で協定書を手にするナッジ株式会社の沖田貴史代表取締役社長(左)と杉岡村長。

クレジットカードで 飯館村を応援!

詳しくは



フィンテック

9月12日、『飯館村とナッジ株式会社とのFintechを通じた地方創生の推進に関する協定締結式』が行われました。また、この協定を元に、「普段使いで“好き”を応援できる」NudgeのVISAクレジットカードで、利用者が飯館村を応援できるようになりました。利用額の一部が村への寄附となり、一定額を達成すると、素敵な特典がもらえる仕組みです。

自治体としては東日本で初めて、全国でも3例目となりました。「遠くにいても村を応援したい」そんな方たちの思いを、大切に活用させていただきます。



浴衣姿で楽しむいいたてっ子の姿が多く見られました。素敵な思い出ができましたね。

秋の思い出またひとつ いいたてっ子秋祭り

9月18日、「いいたて希望の里学園」で、『いいたてっ子秋祭り』が行われました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となっていたが、1家族あたりの参加人数を制限し、感染対策を万全に行った上で開催されました。この日は約220人が参加しました。

スーパーボールすくい、水ヨーヨーつり、千本つり、ボウリングサッカー、水ピストル射的、大ビンゴ大会の計6種類の催しが準備され、会場には親子の笑顔があふれていました。

相馬地方の保護司の皆さんが 交流センターで研修会

8月25日、交流センター「ふれ愛館」で、『相馬地方保護司研修会』が開かれました。「保護司」は、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員ですが、給与は支給されません。保護司法、更生保護法に基づき、犯罪や非行に陥った人の立ち直りや社会復帰を支えます。

研修会では、約40人の参加者が、「被害者等の心情を踏まえた保護観察処遇について」と題した講義を受け、「犯罪被害者等基本法」に照らして保護観察処遇の事例検討などを行いました。



犯罪や非行に陥った人の更生を助けるという難しい任務に、誠実な取り組みが続いています。

試作の加工場として再オープン 『もりの駅まごころ』

8月26日、「もりの駅まごころ」が、農産物の加工場として11年ぶりに運用を再開しました。利用者が試作を行う中で必要な機材を追加していくため、当面の利用は無料です。

再開にあたり、施設を運営するNPO法人「もりの駅まごころ運営協議会」の鮎川邦夫会長(小宮)が、「協議会を解散せず再開を目指してきました。ぜひ有効活用してほしい」とあいさつ。杉岡村長が「アイデアを生かして、わくわくする産品、活動、交流を生み出してほしい」と祝辞を述べました。



利用希望者と関係者に向けあいさつする鮎川会長(右端)。施設の内覧と説明会も行われました。

県内各地の物産が大集合 『ふくしまフェスタ』に出展

9月3日・4日に「恵比寿ガーデンプレイス」(東京都渋谷区)で開催された「ふくしまフェスタ」に出展しました。この催しは、県の主催。特産品の販売やパネル展示などを通して、福島県の魅力を広く発信するもので、飯館村のブースは1日目に登場しました。

ブースの店頭には、「いいたて雪っ娘」かぼちゃ、ナツハゼ、黒毛和牛の牛肉などを加工した飯館ならではの商品が並びました。また、これらの商品を開発した生産者や事業者の努力、創意工夫の素晴らしさを伝え、前進する村の姿を発信しました。



各市町村のブースが並んだ屋外の広場。自慢の物産を通して来場者に村の魅力伝えました。